



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.174
2019.7.20

発行：浜松ユネスコ協会
 発行人：会長 小島逞壯
 TEL(053)463-0458
 FAX(053)463-0458
 編集(広報委員会)阿部行俊

2019年度 浜松ユネスコ協会通常総会

5月12日(日) 於:ホテルコンコルド浜松

<会長挨拶>

歴史を学ばずして 平和のビジョンはない

浜松ユネスコ協会 会長 小島逞壯氏



平成の課題である経済、労働問題、原発、戦争責任、憲法改正などすべて、令和に持ち越されました。最近の国際状況を考えると憲法改正の問題は大きいものがあり、一番怖いのは戦争です。70年経っても慰安婦や徴用工の問題などまだ解決どころか、再燃してきています。

五月晴れに鯉のぼり。鯉のぼりと言えば広島カープ。この応援のエネルギーはどこからくるのでしょうか。原爆への怒りではないかと思えます。何故、広島でなければならなかったのか。今でもその答えはありません。巨大権力にいじめられ続ける広島。原爆を憎みつつ、報われることのない心が、次の世代、次の世代へと伝えられ、市

民球団である広島カープの熱狂的な応援を作り上げていったのではないのでしょうか。

戦争の敵は外国と限りません。太平洋戦争の敵は日本の軍部や政治の中枢でもありました。歴史はつながっています。野球の向こうにさえ戦争の歴史があります。世界大戦の記録をほとんど学ばない現在の日本の子供たちに、憲法や戦争を考える力や能力があるのか、恐ろしさを感じています。私たちは、もう一度、ユネスコの精神に立ち返り、平和に向かって真剣に活動していくことが、使命であると思えます。(要旨抜粋)



<来賓挨拶> ～ AI時代に向けて人材の育成を ～

衆議院議員 塩谷 立氏

令和の時代になっても平和をしっかり引き継いで行くことが我々の責任だと思っています。国際的には政治経済の安定が一番求められていると考えています。最近、科学に対する関心が薄れてきており憂慮しています。これを取り戻す1つがAI時代といわれています。国家としては人材育成が大切と考え、理数離れをとめるために、小中高大の教育の中で対応していこうと思います。

現在はあらゆる分野でAIやIOTと繋がっていますが、本当にAIに頼っていいのか真剣に考えなければなりません。AIによって余裕ができた時間に人間はさらにいろいろ考えていかなければなりません。また、農林食料戦略として自給率をあげることを今後5年10年と考えていかなければならないと考えています。(要旨抜粋)

第4回科学教室 「富士山の自然」

～厳しい気象の中の富士山を実感!～

6月29日(土) 於:宝永火口&白糸の滝



宝永火口入り口

今回は、富士山山腹でガスと雨に見舞われてしまい、富士山や宝永火口の全貌を見ることができませんでした。残念ではありましたが、それぞれのスタッフが、ここでしか見られない植物や岩石などを丁寧に紹介したり、鳥の声にも耳を傾けたりしながら散策しました。

芽吹いたばかりの若緑のカラマツの葉や松かさに触ったり、富士山特

有の黒曜石にも出会えたりしました。また、高所の雨雲の中ならではのガスの動きや風の強さ、気温の変化など、普段は絶対に経験することのできない厳しい自然現象を目のあたりにしました。水ヶ塚駐車場では、羽化したばかりのミヤマクワガタを発見する子、ハルゼミの声に耳を傾けて聴き入る子、今回も教室生の子供たちの豊かな感性に接する場面が多く見られました。下山後は、富士山が作り出した溶岩流と伏流水の場、白糸の滝に寄って学びました。

富士山を訪れる人の多くは、日本一の頂上と御来光を目指して来ているかもしれませんが、この広大な富士山周辺には、長い時間の経過の中で、日本列島の成り立ちや動植物の生育などに通じる学ぶべきものが多々あります。科学教室の「富士山の自然」が18回も続いているのは、単に登頂のためではなく、科学の視点から富士山をとらえ、天候にも左右されず柔軟に学んでいるからです。素晴らしい学びの場に感謝し、更にこの活動が充実していけるように努めていこうと考えています。

参加人数 255名 (子供134名、大人97名、スタッフ24名)

<浅野不二夫>



＜参加者の感想より＞

富士山にはいろいろな石があって、初めて見る石もありました。その石ができたわけも分かってすごかったです。途中から雨が降って絶景は見られなかったけど、色々なことが知れて満足です。
(一部抜粋) <神久呂小5年 堀野泰生>

富士山で森林限界を知りました。下りるとき、森林がないところからあるところがよく分かりました。木が雪のなどのせいで変な形に変わっていたのが面白かったです。黒曜石も見つけました。お菓子の袋が膨らんだ気圧の説明はちょっと難しかったけど少し分かりました。あまり興味のなかった石や岩石に興味をもつようになりました。

(一部抜粋) <浅間小5年 天野了徳>

今日は全てが緊張でした。初めて登った富士山。そこは石がごろごろ落ちていました。雨だったのであまり宝永火口は見えなかったけど、辺りは少しずつ緑があつてきれいでした。白糸の滝はものすごい水が流れ出ていました。想像以上でした。

(一部抜粋) <初生小5年 北村悠登>

実際に登って想像と全く違ったことに非常に感銘を受け、実物を見ることの大切さを学んでいました。鉱物についてもバスでの事前講義から実際に山に転がっている様子を見て理解を深めていました。また、科学以外にも集団行動、山の歩き方、山の天候、富士山の国際性など、学ぶことが多い一日であったと感じました。

(一部抜粋) <佐鳴台小 保護者>

気圧、土壌、プレートや森林限界など、勉強になることばかりでした。途中の雨は、この日を楽しみにしていた人間の期待をまるで無視。日本一の山から容赦ない厳しさの洗礼を受けた気持ちです。いつか頂上を目指すときに、今日の経験がきっと自信になります。

(一部抜粋) <広沢小 保護者>



水ヶ塚公園 参加者全員

2019年度 ユネスコ科学教室 開講式

胸をはずませ開講式

4月27日(土) 於:浜松市地域情報センター

市内50校から126名



スタッフ紹介

今回、196名の応募がありました。しかし、活動内容の充実や安全を考え、抽選により市内50校126名で開講式を迎えることになりました。来賓の挨拶に続き、各グループで自己紹介を行いました。やや緊張した教室生でしたが、これから9回の活動を一緒に進める仲間との仲間意識も深まりました。

科学講話「遠州の昆虫たち」では、浜松ユネスコ協会常任理事 堀内映氏が自らの調査



堀内 映氏

結果に基づいて、市内のセミの種類別分布や変化について解説しました。また、絶滅危惧種ベッコウトンボが生育する磐田市の桶ヶ谷沼の自然環境についても解説しました。講話後、教室生から高度な質問もあり、自然科学に対する関心の深さを感じました。

<来賓挨拶>

～ 人や自然を大切にできる心が世界の平和へ ～

浜松市 創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長 藤田健次氏

みなさんの顔を見て、科学教室の活動を楽しみにしていると感じました。この1年間、楽しんで活動に取り組んでほしいと思います。

ユネスコは教育や科学、文化というものを通じて世界の平和に貢献できる人を育てたいという目的で、多くの国々が加盟している国際連合の中の一つです。この科学教室は、科学を学ぶ中で世界の平和のために行動できる人を育てていきたいという思いからはじまり、30年以上の伝統があります。動植物や天体、岩石など科学に関わる講座がありますので楽しんで参加してください。自然の不思議や美しさを感じ、人や自然を大切にできる心は世界の平和に繋がります。

この教室では、現場に出かけ実体験をする活動です。子供たちにとって有意義なものなると確信しています。(要旨抜粋)



～ 世界の平和という大きな視点で学んでいこう ～

浜松ユネスコ協会副会長 安藤隆敏氏

浜松ユネスコ協会は、1948年4月に民間ユネスコとして全国で5番目に設立されました。浜松市の支援を受けて浜松ユネスコ協会が特に力を入れてきたのが科学教室です。子供たちが科学に真正面から取り組んだ活動をするのは世界でも例がないと言われてしています。

この教室では最後の閉講式で修了証書をお渡しします。そこには、この科学教室を通して身に付けてほしいことが4つ書いてあります。

①「素直な心の持ち主になること」周りの人物事に対して五感を研ぎ澄ましてください。そしてユネスコ会員であるという自覚をもった行動をとってください。



- ②「疑問を追究する人になること」身の回りにはたくさんの不思議が隠れています。なぜだろうと思って調べることが科学です。
- ③「地球の自然を守る人になること」人間が表面的な便利さを追い求め過ぎて地球上にはたくさんの悲鳴があがっています。一度壊された自然が戻るには何十年何百年いやもっと必要です。東日本大震災に伴って起こった原子力発電所の事故を見れば分かると思います。地球に優しいことは巡り巡って人間にも優しいことになるのです。
- ④「世界の人々の平和を願う人になること」世界には食べ物が無いために起こる飢え。薬が無いための病気。そして戦争のために多くの人々が亡くなっています。また、言葉の読み書きができないために貧しい生活を余儀なくしている多くの人たちもいます。世界の平和という大きな視点をもって一人ひとりが本当の学力を伸ばし、日々の生活を送られるようになってください。科学の究極の目的はここにあります。

この4つのことをしっかり心に留めて今日からのユネスコ科学教室をスタートさせましょう。
(要旨抜粋)

第2回科学教室 「チョウと植物、チョウの不思議」

生き物って不思議

5月18日(土) 於:静岡文化芸術大学



今年は昨年比べて、チョウの羽化する時期が遅く、毎年同じ時期・同じ場所で行う採集でも、種類や数が異なっていました。チョウを観察しているだけでも、気候や環境の違いに気が付きます。

「チョウの不思議講座」では、チョウの面白い生態について学びました。クロコノマチョウの幼虫は、2本の角がある可愛らしい顔をしています。その顔の模様がなぜか1匹ずつ異なります。子供たちは、顔の画像を見ると「かわいい!」と釘付けでした。チョウは生き残るため

に進化してきました。擬態をするものや毒を体の中にもつものなど、様々です。しかし、このクロコノマチョウの顔の模様が違うことに、いったいどんな意味があるのでしょうか。しかも成虫の模様はどれも同じだということです。疑問は深まるばかりです。

後半の、「卵・幼虫・蛹・成虫の観察」では、本物のチョウを観察しました。子供たちが興味津々だったのは、成虫の吸蜜実験でした。成虫の羽根を二本の指でそっとつかみ、砂糖水を近づけると、長い口(口吻)を使って吸蜜する様子を目の前で見る事ができました。普段なかなか見られない種類のチョウも多く、子供たちからは感嘆の声が聞かれました。

チョウの生態から生き物の不思議を感じられる、とても有意義な活動となりました。

<藤崎 徹>



印刷のエキスパート
株式会社開明堂
TEL <053> 471-6231(代) FAX 473-0778

遠州鉄道グループ
ホテルコンコルド浜松

第3回科学教室 「微生物とホタル」

ミクロの世界で生き物を発見

6月15日(土) 於:静岡文化芸術大学



顕微鏡の操作方法の確認と各自で採取してきた水の観察、代表的な生き物の観察、ホタルの観察に分かれて学習を始めました。少人数グループに複数のスタッフがついてきめ細やかな指導をすることで、充実した活動を行うことができました。

代表的な生き物として、ミドリムシ、ボルボックス、ゾウリムシなどを観察しました。スタッフがあらか

じめピントを合わせておいたので、子供たちは観察に集中することができていました。また、採取してきた水の中にミジンコを見つけた子供がいました。視野いっぱい広がる大きな体と力強く動く心臓が印象的でした。

顕微鏡の奥に見えるミクロの世界にも、生命が息づいていることを実感することができた活動でした。

<池内伸彰>



第1回 親子公園探検隊

「初夏の自然 in 佐鳴湖公園」

五感を使って探す 面白さと不思議

6月8日(土) 於:佐鳴湖公園

最初の活動はナナフシモドキを見つけることです。エノキの葉の上にちょこんといる細い枝にそっくりのナナフシモドキは、なかなか子供たちの目に留まりません。目を凝らし、見る範囲をせばめてようやく存在に気付きます。子供たちの心に“発見の灯”が点きます！その姿を優しい眼差しで見守る保護者の心も、発見の喜びに浸っていきます。「細い体だね!」「脚は6本ある。でも、前脚は、触覚みたいだね。」実際に手にとって、詳しく見るとさらなる気付きが生まれます。



その後も、タイサンボクの甘い香りをかいだり、クズの葉に描かれたパッチワーク模様をヒントにコフキゾウムシを探したりしました。

ユネスコの親子公園探検では、自然の中に溶け込んでいる様々な生き物の営みに気付き、五感を使って面白さや不思議さを味わうことができるのではないかと思います。そして、親子で過ごす素敵な時間の一助になっていれればと願っています。

<鳥井みのり>

2019年度 浜松ユネスコ協会通常総会

＜議事＞

座長 浜松ユネスコ協会顧問 岡本 肇 氏

2018年度の事業、会計、監査が報告されました。また、新賛助会員及び新理事、2019年度の事業計画と予算案が提案され、原案どおり異議なく承認されました。続いて、国際ソロプチミスト浜松会長の秋優子氏を講師に講話「私の大切なもの」が開催されました。



＜講演＞ 「私の大切なもの」

～ 一人一人の歴史 大切にしたい人生 ～

国際ソロプチミスト浜松会長 秋 優子 氏



現在、私は国際ソロプチミスト浜松で会長をさせていただいています。今日はソロプチミストの活動と私の仕事である介護の話をしていただきます。

はじめに、国際ソロプチミストは世界123カ国に約75000人の会員をもつ女性だけの奉仕団体です。ソロプチミスト浜松は1980年に28人の会員からスタートしました。今期は39年目となり、アフリカのタンザニアで介護教室を立ち上げ10年間指導を行ってきました。

私は2011年12月に入会し8年目に会長となりました。現在の課題は会員の増強です。ソロプチミスト浜松は90代から40代まで33名で活動しています。会員全員が活動後に楽し

い、面白い、良かったという自覚がないと他の人に薦められないと思います。3世代ほどの年齢幅がある33名が共に輝くことが大切と考えています。

ソロプチミストに入って大切にしたいことは多くの人と出会い、仲間を作って広げて行くことと思います。世代も生活の背景も異なる仲間が和気あいあいと同じ活動をします。「同じ志をもった友情で結ばれた友達です。」といえる仲間づくりをしていると感じています

次に、私の仕事の話です。職業ですから楽しいとかではなく一生懸命にやっているだけです。医療法人拓己会は1つの診療所と3つの介護事業を行っています。夫である病院長の「患者さんを最期まで診たい。」という希望で平成19年に介護老人保健施設（老健）を開設しました。

特別養護老人ホーム（特養）と介護老人保健施設（老健）の違いが分かるでしょうか。大きな違いの1つとして、老健は母体が主に医療法人であるため24時間ではありませんがドクターが常勤しています。リハビリをして自宅に戻ることを目的としています。3年ごとに介護報酬の改訂があり、昨年4月の改訂で老健は「日々の心身の維持回復」が目的となっています。これは少しでも

内科・消化器科

西脇 医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

学園祭 10月5日(土) 6日(日) 10～15時
パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

長く在宅生活を支えるということであり難しいことです。

事業を始める前は、私自身は介護に関して全くの素人でした。そのため一から勉強をはじめ、教科書通りに老健とはどういうものか学びました。病院から退院後に入所し、ケアマネージャーによるマネジメントに沿ってリハビリを行い、自宅に帰れる状態や状況を判断していきます。当然ですが帰宅後もケアを続けていきます。

私は入所された方々に次のことを尋ねています。そして、大切に考えています。

「大切なものは何ですか？ 呼び方は？ 大切な人は？ 大切なもの、思い出、好きな食べ物、好きな服装、好きな歌、リラックスできる時、イライラするとき、不安なこと、人にしてほしいこと、人にしてほしくないことは、好きな言葉、私に伝えておきたいことは？」などです。

私の大切にしているものは人生です。人間の歴史です。ソロプチミストの仲間や入所された方々と話をすると、みなさん、それぞれ歴史があります。それを一番大切にしています。（要旨抜粋）

<懇親会>

総会と講話後には、恒例となっている懇親会が顧問の鈴木道子氏の乾杯により開かれました。懇親会では、会員の親睦を深めながら、今後の活動についても語り合うこともできました。委員会ごとの顔合わせやコアアクションなども行われました。参加された会員の方々は、有意義に楽しい時間を過ごすことができました。

コアアクションでは、会員の皆様から27,491円の御協力いただきました。浜松ユネスコ協会活動支援金として有意義に活用させていただきます。ありがとうございました。

浜松ユネスコ協会顧問 鈴木道子氏

令和の時代に入り、浜松では初風が揚げられました。お祝いのムードが続いています。このお祝いのムードの中、私たち浜松ユネスコ協会も益々素晴らしい時代となりますようお願いいたします。



あなたも一緒に
会員募集
 問い合わせ・申し込み
 事務局 三輪 宜弘
 ■ 053-425-8643

会員動向

会員数（2019.7.2現在）

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	41
普通	学生	合計	
43	0	121	